

とする意見があった。

南西太平洋諸国からの途上国の参加も必要との意見もなされた。

(ル) 他の国際機関に関しては、世銀が、CG への参加を表明はしたが、NFAP の質及び計画期間に長期を要する等問題が多いとの意見を述べた。また UNDP は、本件に関するコミットメントは政府のコミットメントによるとした上で、UNDP の大きな関心事は基本的に国レベルの問題（援助受入れ能力の向上）である旨、また ITTO からは、CG への積極参加の表明があった。

(オ) CG の運営資金に関しては、FAO の通常予算から支出されるべきとする意見が多くみられたが、一部広く資金を集めるべきとする意見も述べられた（事務局側も、通常予算からの支出が望ましいが、資金的に逼迫している今の FAO の状況からは、追加的な資金が必要であるとしている）。

(ウ) 最終的に、CG の設置を決定するのは理事会の権限であるので、合意が得られていない現状では、理事会に対して CG 設置の決定を委ねるのではなく、あくまで議論の内容を伝えるものとすべきである。また米国等からコンセンサスが得られるまで少し冷却期間を置いてはとの意見がだされたが、全体としては受入れられなかった。

(7) その他

次回の第 12 回委員会は、1995 年 4 月 3 日から 7 日まで FAO 本部で開催されることとなった。

新刊紹介

◎'92 国連環境開発会議と緑の地球経営 林野庁監修、国際林業協力研究会編
日本林業調査会発行、A5 版 388 pp. 3,000 円 (〒 380 円) 1993. 2. 25 刊

第 1 章 世界の森林の現況・第 2 章 国際的な動き（森林に関する原則声明の形成までに行われた主な国際会議）・第 3 章 国連環境開発会議における森林問題・第 4 章 森林に関する原則声明、アジェンダ 21（森林分野）の考え方・第 5 章 国際林業協力の現状と今後の展開方向・資料編